

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

海南市教育委員会

1 調査結果の公表にあたって

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に実施しています。しかし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。本市としましては、本調査の結果から得られた全国の状況等を参考にしながら、今後の教育施策を講じるための一つの指標と捉えるとともに、各学校における学習指導の充実・改善、児童生徒一人一人の学習状況の改善等につなげてまいります。

2 調査の実施状況

(1) 調査実施日 令和4年4月19日（火）

(2) 調査の対象学年（本市での実施学校・児童生徒数）

- ・小学校第6学年（12校・338人）
- ・中学校第3学年（7校・334人）

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

- 小学校調査・・・国語、算数、理科
- 中学校調査・・・国語、数学、理科

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する内容

(4) その他

① 本調査は、対象となる学年が限られており、本年度は、実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科であること、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要です。また、今回示した数値は調査結果のすべてを表すものではありません。

② 今後の指導に生かすため、市全体の結果から見たそれぞれの教科や質問紙の概要、今後の取組についてなどを併せて記載しています。

3 教科に関する調査の結果

【小学校】

(1) 平均正答率 ()内は全国比

	国語	算数	理科
海南省	68.1 (+2.5)	66.4 (+3.2)	67.4 (+4.1)
和歌山県(公立)	65	63	63
全国(公立)	65.6	63.2	63.3

※ 自治体別の平均正答率は小数点以下を四捨五入し、整数値で示されていますが、海南省の結果は各設問の平均正答率をもとに計算し、独自に小数点まで算出しています。

(2) 各教科の概要

① 国語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	国語		
	海南省	和歌山県	全国
話すこと・聞くこと	66.0	65.1	66.2
書くこと	49.5	48.2	48.5
読むこと	66.0	62.9	66.6
言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	70.3	69.0
我が国の言語文化に関する事項	86.8	81.3	77.9

ii) 全国との正答率と比較した特徴

話すこと・聞くこと (全2問)

- ・平均正答率 66.0% (全国との差 -0.2%)、2問中1問が全国を上回っている。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることに課題がある。

書くこと (全2問)

- ・平均正答率 49.5% (全国との差 +1.0%)、2問中1問が全国を上回っている。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることが概ねできている。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

読むこと (全4問)

- ・平均正答率 66.0% (全国との差 -0.6%)、4問中3問が全国を下回っている。
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることが概ねできている。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えたり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

言葉の特徴や使い方に関する事項 (5問)

- ・平均正答率 74.2% (全国との差 +5.2%)、5問中3問で全国を上回っている。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが概ねできている。
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題がある。

我が国の言語文化に関する事項 (1問)

- ・平均正答率 86.8% (全国との差 +8.9%)、1問中5問が全国を上回っている。

② 算数

i) 学習指導要領の領域別正答率

	算数		
	海南省	和歌山県	全国
数と計算	74.2	71.0	69.8
図形	69.6	63.6	64.0
変化と関係	51.2	50.6	51.3
データの活用	68.1	68.2	68.7

ii) 全国の正答率と比較した特徴

数と計算 (全6問)

- ・平均正答率 74.2% (全国との差+4.4%)、6問中5問で全国を上回っている。
- ・被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができている。
- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を概ね記述できている。
- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。

図形 (全4問)

- ・平均正答率 69.6% (全国との差 +5.6%) 4問全てで全国を上回っている。
- ・図形を構成する要素に着目し、長方形・ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解できている。
- ・示された作図の手順を基に図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを概ね判断できる。

変化と関係 (全4問)

- ・平均正答率 51.2% (全国との差 -0.1%)、4問中2問が全国を上回っている。
- ・百分率で表された割合を分数で表すことが概ねできている。
- ・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることに課題がある。
- ・数量が変わっても割合は変わらないことを理解していない児童が多い。

データの活用 (全3問)

- ・平均正答率 68.1% (全国との差 -0.6%) 3問中1問が全国を上回っている。
- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。
- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題がある。

③ 理科

i) 学習指導要領の領域別正答率

	理科		
	海南省	和歌山県	全国
「エネルギー」を柱とする領域	55.0	50.9	51.6
「粒子」を柱とする領域	65.0	61.2	60.4
「生命」を柱とする領域	78.7	74.1	75.0
「地球」を柱とする領域	69.7	63.4	64.6

ii) 全国の正答率と比較した特徴

「エネルギー」を柱とする領域 (全4問)

- ・平均正答率 55.0% (全国との差 +3.4%) 4問全てで全国を上回っている。

- ・問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することが概ねできている。
- ・自分で発想した実験の方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことが概ねできている。

「粒子」を柱とする領域（全5問）

- ・平均正答率 65.0%（全国との差 +4.6%）5問中4問で全国を上回っている。
- ・メスシリンダーという器具を概ね理解している。
- ・自分で発想した予想と実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもつことが概ねできている。

「生命」を柱とする領域（全5問）

- ・平均正答率 78.7%（全国との差 +3.7%）5問中4問で全国を上回っている。
- ・昆虫の体のつくりを概ね理解している。
- ・提示された情報を複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができている。

「地球」を柱とする領域（全5問）

- ・平均正答率 69.7%（全国との差 +5.1%）5問全てで全国を上回っている。
- ・観察で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができている。
- ・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことが概ねできている。

【中学校】

(1) 平均正答率（ ）内は全国比

	国語	数学	理科
海南省	71.5 (+2.5)	55.2 (+3.8)	48.8 (- 0.5)
和歌山県（公立）	66	50	46
全国（公立）	69.0	51.4	49.3

※ 自治体別の平均正答率は小数点以下を四捨五入し、整数値で示されていますが、海南省の結果は各設問の平均正答率をもとに計算し、独自に小数点まで算出しています。

(2) 各教科の概要

① 国語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	国語		
	海南省	和歌山県	全国
話すこと・聞くこと	68.9	60.8	63.9
書くこと	53.1	47.1	46.5
読むこと	69.9	63.1	67.9
言葉の特徴や使い方に関する事項	75.8	69.8	72.2
情報の扱い方に関する事項	53.1	47.1	46.5
我が国の言語文化に関する事項	70.0	67.5	70.2

ii) 全国の正答率と比較した特徴
話すこと・聞くこと（全3問）

- ・平均正答率 68.9% (全国との差 +5.0%) 3問中2問で全国を上回っている。
- ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することが概ねできている。

書くこと (全1問)

- ・平均正答率 53.1% (全国との差 +6.6%) 全国を上回っている。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことが概ねできている。

読むこと (全2問)

- ・平均正答率 69.9% (全国との差 +2.0%) 2問中1問で全国を上回っている。
- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することが概ねできている。
- ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写を基に捉えることに課題がある。

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全6問)

- ・平均正答率 75.8% (全国との差 +3.6%) 6問中4問で全国を上回っている。
- ・助動詞の働きについて理解し目的に応じて使うことが概ねできている。
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解することにやや課題がある。

情報の扱い方に関する事項 (全1問)

- ・平均正答率 53.1% (全国との差 +6.6%) 全国を上回っている。

我が国の言語文化に関する事項 (全3問)

- ・平均正答率 70.0% (全国との差 -0.2%) 3問中2問で全国を上回っている。
- ・行書の特徴を理解することに課題がある。
- ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解できている。

② 数学

i) 学習指導要領の領域別正答率

	数学		
	海南省	和歌山県	全国
数と式	64.4	56.9	57.4
図形	44.3	41.7	43.6
関数	43.8	40.7	43.6
データの活用	62.1	55.2	57.1

ii) 全国の前答率と比較した特徴

数と式 (全5問)

- ・平均正答率 64.4% (全国との差 +7.0%) 5問中4問で全国を上回っている。
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くこと、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することが概ねできている。
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

図形 (全3問)

- ・平均正答率 44.3% (全国との差 +0.7%) 3問中2問で全国を下回っている。
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

関数 (全3問)

- ・平均正答率 43.8% (全国との差 +0.2%) 3問中2問で全国を下回っている。
- ・一次関数の変化の割合の意味を理解することに課題がある。
- ・与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。

データの活用 (全3問)

- ・平均正答率 62.1% (全国との差 +5.0%) 3問とも全国を上回っている。
- ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることが概ねできている。

③ 理科

i) 学習指導要領の領域別正答率

	理科		
	海南省	和歌山県	全国
「エネルギー」を柱とする領域	37.4	38.7	41.9
「粒子」を柱とする領域	37.6	46.8	50.9
「生命」を柱とする領域	48.3	53.2	57.9
「地球」を柱とする領域	40.2	42.2	44.3

ii) 全国の正答率と比較した特徴

「エネルギー」を柱とする領域 (全6問)

- ・平均正答率 40.9% (全国との差 -1.0%) 6問中5問で全国を下回っている。
- ・静電気に関する知識及び技能の活用に課題がある。
- ・力の働きに関する知識及び技能を活用して物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することに課題がある。

「粒子」を柱とする領域 (全5問)

- ・平均正答率 48.5% (全国との差 -2.4%) 5問全てで全国を下回っている。
- ・化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈することに課題がある。
- ・状態変化に関する知識及び技能の活用に課題がある。
- ・実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し必要な実験を指摘することに課題がある。

「生命」を柱とする領域 (全5問)

- ・平均正答率 60.0% (全国との差 +2.1%) 5問中4問で全国を上回っている。
- ・節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することが概ねできている。
- ・予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘することにやや課題がある。

「地球」を柱とする領域 (全6問)

- ・平均正答率 43.6% (全国との差 -0.7%) 6問中3問が全国を下回っている。
- ・上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について、判断することに課題がある。
- ・地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながらルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈することに課題がある。

4 質問紙調査の結果

全国学力・学習状況調査では、教科の調査のほか、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童生徒の学校や家庭における学習状況や学校での学習の様子が分かります。

※ 表中の海南省の数字は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合
 ※ 比較は、海南省と全国との割合の差（海南省－全国）を表す

(1) 基本的な生活習慣

質問事項	小学校		中学校	
	海南省	比較	海南省	比較
朝食を毎日食べていますか	94.0	-0.4	91.9	±0
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.6	+1.1	78.6	-1.3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.6	+1.2	91.6	-0.6
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	66.5	-5.0	59.6	-9.9
普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム）をしますか（1時間以上）	81.3	+5.2	73.5	+2.2

(2) 規範意識、自己有用感等

質問事項	小学校		中学校	
	海南省	比較	海南省	比較
自分には、よいところがあると思いますか	79.1	-0.2	75.4	-3.1
将来の夢や目標を持っていますか	75.6	-4.2	61.5	-5.8
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	90.1	+2.9	81.0	-6.6
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	75.2	+2.7	55.0	-12.1
人が困っているときは、進んで助けていますか	92.6	+3.7	84.1	-4.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8	+1.0	96.7	+0.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.7	-0.4	93.5	-1.5
学校に行くのは楽しいと思いますか	89.4	+4.0	86.1	+3.2
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.4	+4.9	74.1	-2.8
友達と協力するのは楽しいと思いますか	93.6	-0.4	91.6	-2.1

(3) 学習習慣等

質問事項	小学校		中学校	
	海南省	比較	海南省	比較

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	80.6	+9.5	54.4	-4.1
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む:1時間以上)	58.3	-1.1	68.5	-1.0
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む:1時間以上)	53.3	-2.8	62.5	-8.3
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く:30分以上)	39.6	+3.2	23.7	-3.6
あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く:10冊以下)	18.4	+6.8	19.7	+5.1
新聞を読んでいますか(週に1回以上)	13.4	-0.4	7.4	-2.0

(4) 地域や社会に関わる活動の状況

質問事項	小学校		中学校	
	海南省	比較	海南省	比較
今住んでいる地域の行事に参加していますか	46.6	-6.1	26.2	-13.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	53.4	+2.1	32.3	-8.4

(4) ICTを活用した学習状況

質問事項	小学校		中学校	
	海南省	比較	海南省	比較
5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか(週1回以上)	88.7	+5.4	67.6	-13.0
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.0	+0.6	91.0	-1.6
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(全く使っていない・持っていない以外)	80.6	+6.8	75.1	-3.2

5 今後の取組について

令和4年度全国学力・学習状況調査における本市の各教科の状況については、中学校の理科において、全国を0.5ポイント下回っていたものの、その他の教科については、小学校、中学校ともに各教科の平均正答率が全国及び県を上回っており、概ね良好な結果であるとともに、学習の成果が現れていると捉えています。

令和2年度より小学校において、令和3年度からは中学校において新しい学習指導要領が全面实施となっており、今後は、子供たち一人一人に対し、基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろん、それらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力などや、学びに向かう力・人間性等幅広い学力を確かに身につけさせることが必要です。また、一人一台の学習端末を活用し、創意工夫ある、魅力ある授業を展開し、すべての子供が「できる・分かる」喜びを持てる学びを形成できるよう、授業改善に継続的に取り組むことが重要であると考えています。

そのため、全国学力・学習状況調査から得られる結果等をさらに分析し、子供たち一人一人の学習状況の把握はもとより、一層きめ細かい指導を進めていくことが大切であると捉えています。

なお、基本的な生活習慣の確立、規範意識・自己有用感の醸成、家庭学習のあり方、読書活動

の推進、地域や社会参加への意識高揚などについては、家庭や地域の皆様方の御理解と御協力をいただきながら、より充実させていくことが求められます。

教育委員会としましては、今後とも、各学校の学力向上に向けた取組を支援するとともに、教育施策の充実を図り、子供たちの可能性を広げる教育の推進に努めてまいります。

また、各学校においても、自校の状況及びその分析結果、改善方策等を保護者等に説明することとしております。